

千秀だより

自分で考え
表現し
挑戦し続ける子

横浜市立千秀小学校

令和6年(2024年)8月27日



9月号

URL www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/

～千に秀でる子の育成～ クラス名 R6

イチゴ会

キラキラレインボー 光のきずな
えがおのパズル 世界地図 ビビンバ

大地 MemoryRoad

人と関わる つながる 楽しくなる

校長 平島 幸江

長い夏休みも終わり、本日より授業を再開いたしました。夏休み中は、猛暑で、校庭開放の中止が続きましたので、校庭で体力づくりを楽しみにしていた子にとっては少し残念だったかもしれません。加えて休業中に集中して、複数の工事を行っていましたので、通行などにご不便をおかけしたのではないかとと思います。また、8月中旬頃は巨大地震注意の情報が入ったり、大型台風が近づいたり和不穏な雰囲気も続きました。一方で、今年は何といてもパリオリンピック。各選手の活躍や熱戦に活力をいただきました。最後の瞬間まで自分や仲間を信じて挑み、あきらめずにやり遂げる選手の姿から、筋書きのないドラマが生まれ、感動しました。昔は(本当に昔は)、国内では負けなしの選手も世界大会に行くと委縮してしまっ力を出し切れないというケースも少なくなかったですが、最近のアスリートたちは本当に頼もしい。哲学すら感じるその言動に感心しきりの深夜が続きました。今もその余韻にひたっています。

さて、授業再開の話題に移ります。夏の間、教員たちは、自身の休養とともに多くの研修を行いました。特に「教育課程研究協議会」という全市の教員が集まる大きな協議会に参加し、各自の持つ指導上の課題や得意分野について研修に取り組みました。「夏の教育課程」と呼んでいます。今年度の大きな柱は、「主体的・対話的で深い学びの実現のための学びのデザイン」「デジタル活用」「横浜では、自立した学習者をどのように育成していくか」というものでした。内容を私なりに解釈して平たくして言わせていただくと、令和の子どもたちを、「教室で先生からの指示がでることを静かに黙って待っている子にしない。」「情報過多の世相の中、自分の方向性を選び、決めたことを最後までやり抜く力をつける」「一人で抱え込まずに、人とつながり、受け止め(時にはうまく断り)、自分らしく進んでいく子を育てる」という内容です。数年後に予定されている新たな指導要領改訂に向けた動きも垣間見えるような内容でしたし、必要に応じてオンラインやオンデマンド方式が普通に行われるようになったことも、以前には考えも及ばなかったことです。

本校でも、この方向性を同じくし学校教育目標の実現に向けて教育活動を継続していきます。特に今後実施予定の、行事や総合的な学習の時間(3～6年)、生活科(1,2年)や特別活動などで、人と関わる活動を教育活動の中心に置き取り組みます。これらの教科等は、児童自身が持つ「めあて」や「課題」から学習が始まり、おのずと主体的になりますから、この教育活動を主軸とし、国語や算数など、他の教科等の指導事項をからめ合科的に指導するカリキュラムのアレンジを行っていきます。教科書の目次順に指導せず、入れ替えて指導することもあるということです。

自分が決めたこと、または学級で決めたことを、最後までやり遂げ、楽しかったな、もっとやりたいな、次は何をしようかな、と思考が流れていくでしょう。学ぶことを楽しむ子、自ら学びを積み上げたり広げたりできる子を育てていきたいです。